

『シカの落ち穂拾い』 辻 大和

目標 示されている事実と、筆者の考えとの関係を読み取る

① 観察のきっかけ

サルが採食している木の下で、シカがサルの落とした葉や花を食べ始めた。
 樹上の動物が落とした食物を地上の動物が採食する行動を、ミレーの名画になぞらえて「**落ち穂拾い**」という。

② 観察からわかったこと

・「落ち穂拾い」は三月から五月にかけての春に集中していた。
 ・「落ち穂拾い」で、シカは十六種二十二品目の植物を採食した。

・「落ち穂拾い」をするシカの数、一回当たり一頭から二十一頭とばらつきがあった。

・サルが樹上で採食するときには、木の下には意外に多くの植物が落下していた。

③ 仮説

筆者の考え

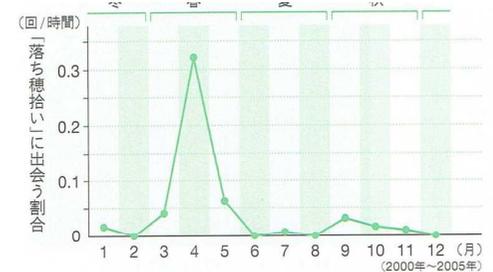
一 サルのいる木の下にあつまってくるのだから、猿の落とす食物には、シカにとって何か魅力があるはずだ。

二 「落ち穂拾い」の行動が春に集中しているのは、不思議だ。

表1 「落ち穂拾い」でシカが採食した植物

春 3月～5月	エノキ(葉) オオモミジ(葉) カマツカ(つぼみ・葉) クマノミズキ(冬芽) ケヤキ(葉) ソメイヨシノ(花・果実・葉) フジ(花) ブナ(花)
夏 6月～8月	ホオノキ(葉)
秋 9月～11月	アカガシ(堅果) ウラジロノキ(果実) エノキ(葉) オオウラジロノキ(果実) カキノキ(果実・葉) クマノミズキ(果実) クマヤナギ(葉) コナラ(堅果) ナラ類(堅果)
冬 12月～2月	エノキ(樹皮)

(2000年～2005年)



(2000年～2005年)



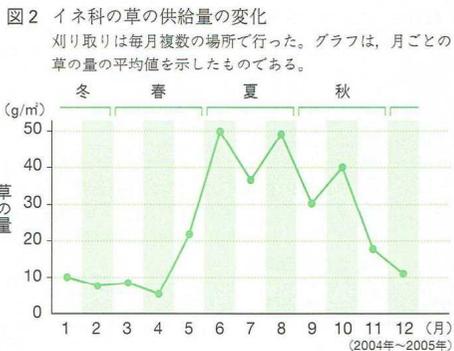
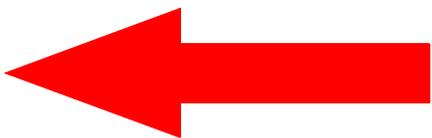
仮説

- 一 春は、シカの食物が不足している。
- 二 サルの落とす食物のほうが、栄養価が高い。

④ 仮説の検証と検証の結果

一についてイネ科の草の供給量の測定

- ・イネ科の草の量は夏から秋に多く、その後急激に減少。



- ・春は、シカの本来の食物が不足している時期である。

二について食物の栄養価の分析

- ・「落ち穂拾い」の食物のほうが、エネルギー量が多い。

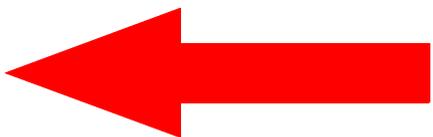


表2 「落ち穂拾い」で採食した食物とシカの本来の食物の栄養価の比較 (100g 当たりの平均値)

	「落ち穂拾い」で採食した食物	シカの本来の食物
エネルギー	444kcal	306kcal
脂質	4.1g	1.1g
たんぱく質	12.3g	8.4g
炭水化物	80.8g	61.0g

(2004年～2005年)

- ・サルの落とす食物のほうが、シカの食物よりも栄養価が高い。

・三月ごろはシカの体重が非常に軽い。

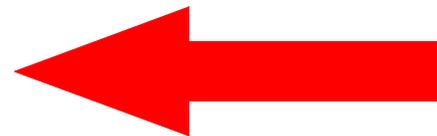
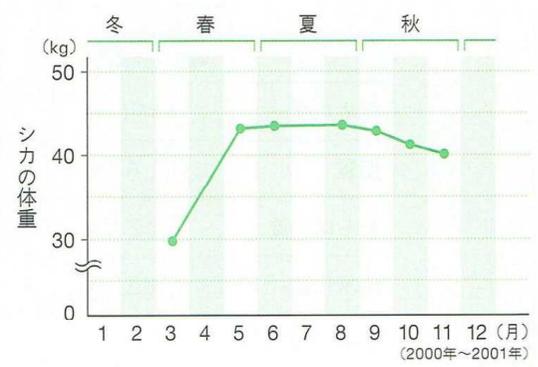


図3 金華山のシカの体重の変化
1月, 2月, 4月, 7月, 12月には, 測定が行われていない。



・春先は、一年の中で、シカの栄養状態が特に悪い。

④ 考察

・検証の結果から、二つの仮説は支持されたといえる。

・これまで、互いに無関係に暮らしていると考えられていたシカとサ
ルが、つながりをもって暮らしていることがわかった。

